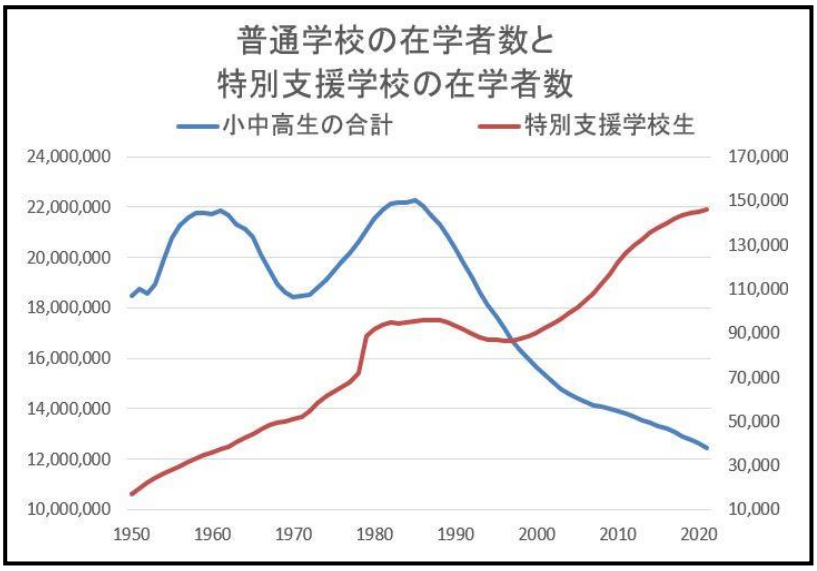
平和で、多様な人々が共生する社会へ！

共に生きる社会は 共に学ぶ教室から

地域の学校で一緒に学ぶインクルーシブ教育を実現しよう
能力主義の流れを変えて、楽しく学べる学校にしよう

おかしいと思いませんか！？

学校へ通う子どもたちの数は減っているのに、分けられた場で学ぶ子どもたちの数はこんなに増えています。



日本も批准している国連の障害者権利条約には「インクルーシブ教育」が謳われています。インクルーシブ教育とは、障害の有無にかかわらず、どの子も同じ教室で一緒に学ぶことです。それは、今の能力主義の学校を変えることにもなります。

しかし、上のグラフのように、権利条約を批准したにも関わらず、分けられた場で学ぶ子どもたちが増え続けています。なぜなのでしょう。文科省が、多様な学びの場に子どもたちを分ける教育をすすめているからです。日本は法の支配を建前とする国家ではないのでしょうか!?

文科省は障害者権利条約のインクルーシブ教育の意味を歪曲し、同じ教室で多様性を認めあうのではなく「多様な学びの場に子どもたちを分ける」教育をインクルーシブ教育システムと言ってすすめています。適正就学の名で、障害児を普通学級から分ける指導に力を入れています。また、新しい障害名が出てきて、ちょっとでも変わっているとみられるとすぐに治療対象とされる傾向が強まっています。障害児は「増えている」のではなく「増やされている」のです。「特別支援学校の教室が足りない」と報道されていますが、足りないのは普通学級のゆとりと一緒に学ぶための合理的配慮です。

国連障害者権利委員会に日本の分離教育の実態を訴えます

私たちは、国連障害者権利委員会にパラレルレポートを提出し、障害のある子が普通学級から分断される現状を報告しています。また国会に向けて「共に生きる社会をめざして　障害者権利条約が規定するインクルーシブ教育の実現を求める請願署名」も提出しました。今年2022年8月に国連障害者権利委員会がジュネーブで開催され、日本が審査されます。私たちは、日本のこのような状況を直接訴えるために、現地に仲間を派遣する予定です。

ご支援をお願いいたします。 派遣費用のカンパ受付先

郵便振替口座　記号　00180－0－73366
加入者名　　障害児を普通学校へ・全国連絡会

だいじょうぶ、みんなで行こう地域の学校へ

障害のある子は、特別な施設や学校・学級に行くものと思っていませんか？

そんなことはありません。保育園・幼稚園・こども園、地域の普通学級へはだれでも入れます。

障害があっても、当たり前に地域の学校へ通う子どもはたくさんいます。

中 2 の娘は地域の普通学級で 6 年間過ごした仲間とともに地域の中学校の普通学級へ進みました。好きな教科は数学で、定期テストは解答用紙に自分の知っている字をたくさん書いてきます。体育では柔道の時間に綺麗な所作による正座や受け身を教わり「受け身だよ。〇〇ちゃんと一緒にやったの！」と家で披露してくれました。体育祭や水泳大会など行事は先生の工夫次第で参加の仕方はいろいろあるものです。

（東京都　ダウン症の子の母親）

ご相談ください

私たちは普通学級で共に育ちあうことをすすめ、サポートしています。

当会は、障害があっても地域の学校に行きたいという親子の声に応えて、1981 年に「障害児が普通に学校へ行けるように」を共通の願いとして出発しました。

1979 年養護学校が義務化されてから、障害児は養護学校（現：特別支援学校）へという指導が強まりましたが、地域の学校で共に学ぶことを願って、全国から保護者をはじめ、障害者、教師、保育士、医師、弁護士など多くの方が参加しました。

以来 40 年にわたって「障害のある子もない子も、共に学び合う学校教育」をめざして会員相互のネットワークを作り、社会にアピールしています。

障害のある人もない人も共に暮す社会は共に学ぶ学校から作られると思ってきました。そのことは、日本も批准した障害者権利条約にも謳われています。

私たちは、地域の普通学級への就学希望を最優先すべきであると考えて各地で活動しております。電話やメールによる相談も受けつけています。ご連絡をお待ちしております。

障害児を普通学校へ・全国連絡会

157-0062
東京都世田谷区南烏山 6-8-7 楽多ビル３階
TEL　03-5313-7832
FAX　03-5313-8052
メール　info@zenkokuren.com
ホームページ　http://www.zenkokuren.com